

甘泉堂
和泉屋市兵衛板



^13
3879
2

雪麻呂
東里山人合作
溪齋英泉画

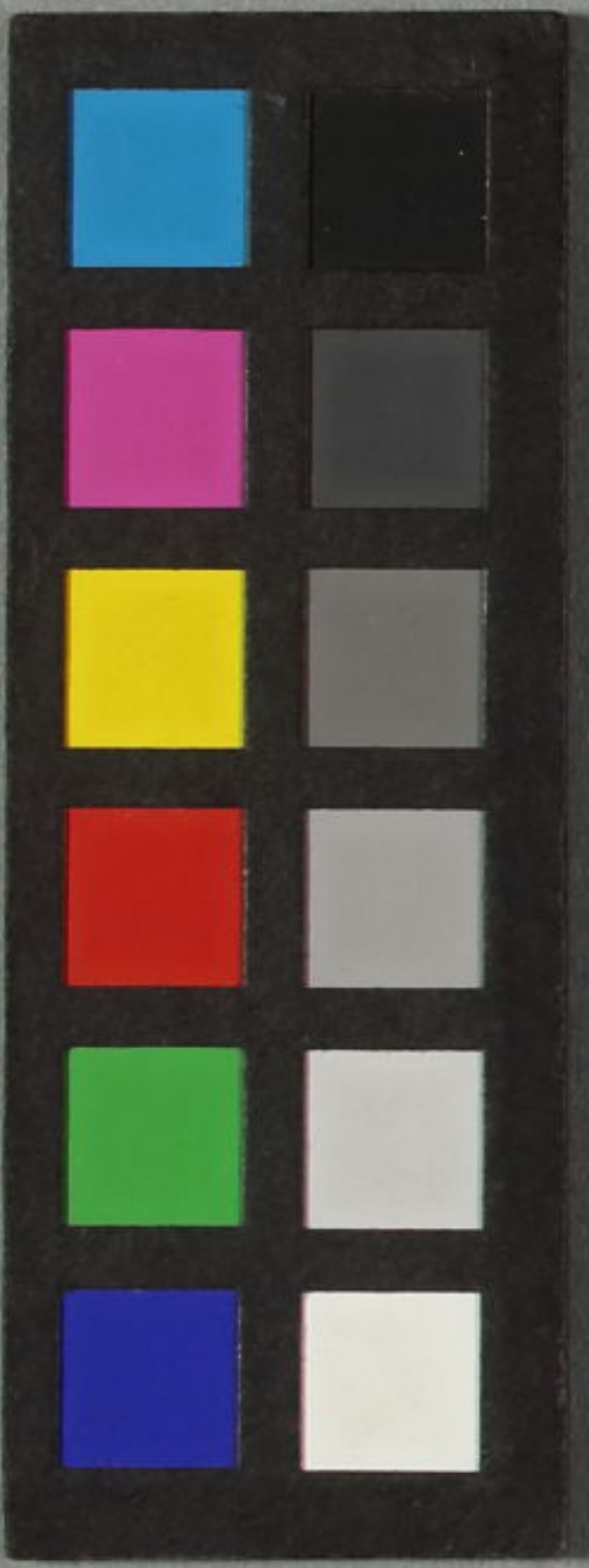


七種
多る
物の話

文政己丑春新版

全六冊

^13
3879
1

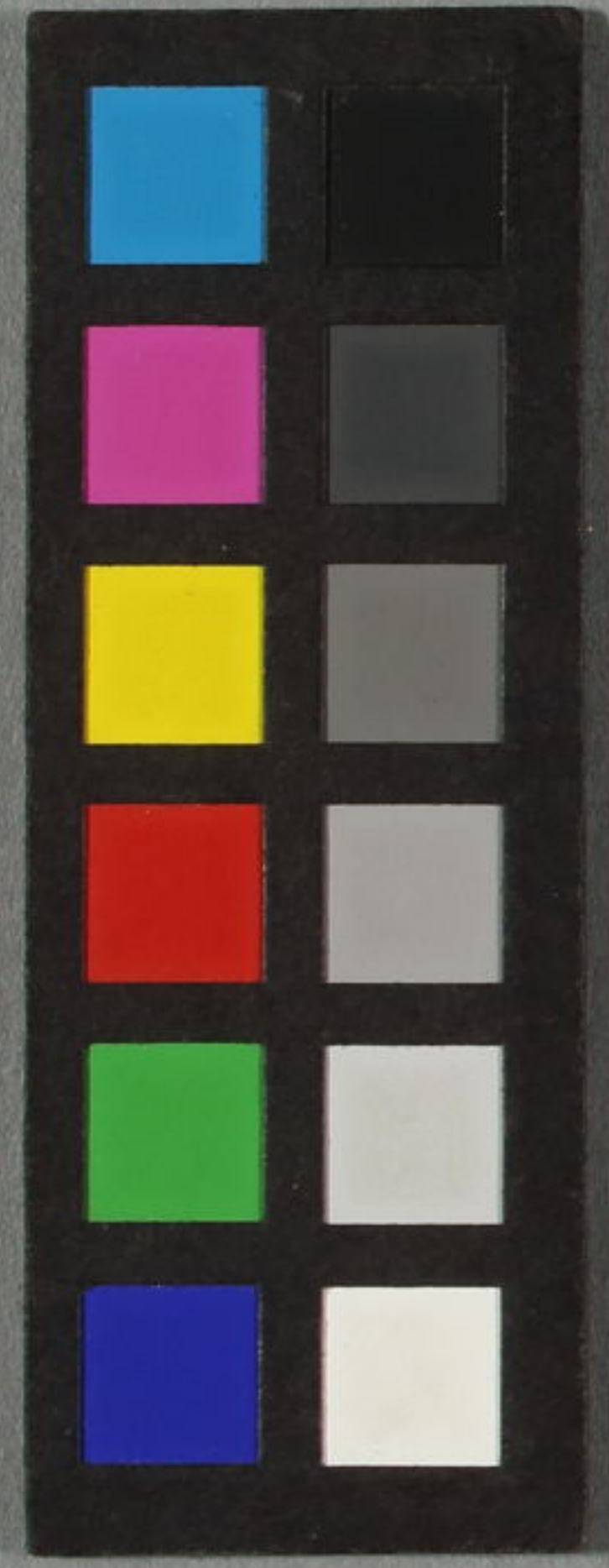


雪麻呂
東里山人 合作
溪齋英泉画

七種
薺物語

文政己丑春新版

全六册



~13
3879
1

門へ13
3879

雪 麻呂 合作
練 里山 人
溪 齋 英 泉 画
前編

七種齋語

全六冊

維時文政十二年
己丑孟春新版
甘泉堂和泉屋市兵衛梓

芝神明前

壹



○あしひつるあひうた
海よるるあしひつるあひうた
らあしひつるあひうた
このあしひつるあひうた
安くあしひつるあひうた
されつあしひつるあひうた



無常貴賤不擇
人命沙婆婆在限

經の
無常
品よる

○毒鳥
毒鳥を唐土の鳥なり

○美咲く
一字不脱や

よの山
右鼻山

○七種
節判官
春也

七種の

七種菜の歌は。芥薺御形田平子佛の座昔蕙是七
七種。ト云々。宇多天皇寛平年中より始はるると七
○亦延喜十一年正月七日は後院より七種の若菜を供
むるあり。○天武天皇の御宇正月七日始め七種の
節會あころる。○夫木集公朝の歌は。○君がため七種
朝の七草茂は。○萬代の春。○塩囊抄。○年中
行夏等あり。正月七日。七草茂献むる。○更にあ
○荊楚歳時記あり。正月七日と人日と。七種の菜
を以て羹と。とあり。○中萃あり。七種と。加具さる
ると。是は齋物語のちあり。○序文
換るあり。一
文政十二己丑年正月
墨川亭雪磨
東里山人述

煩惱即菩提
生死即涅槃



これ法華經の

譬喩

品ふよる

悉是吾子

あまゆる日るる

御身拭ひ

右 九陽

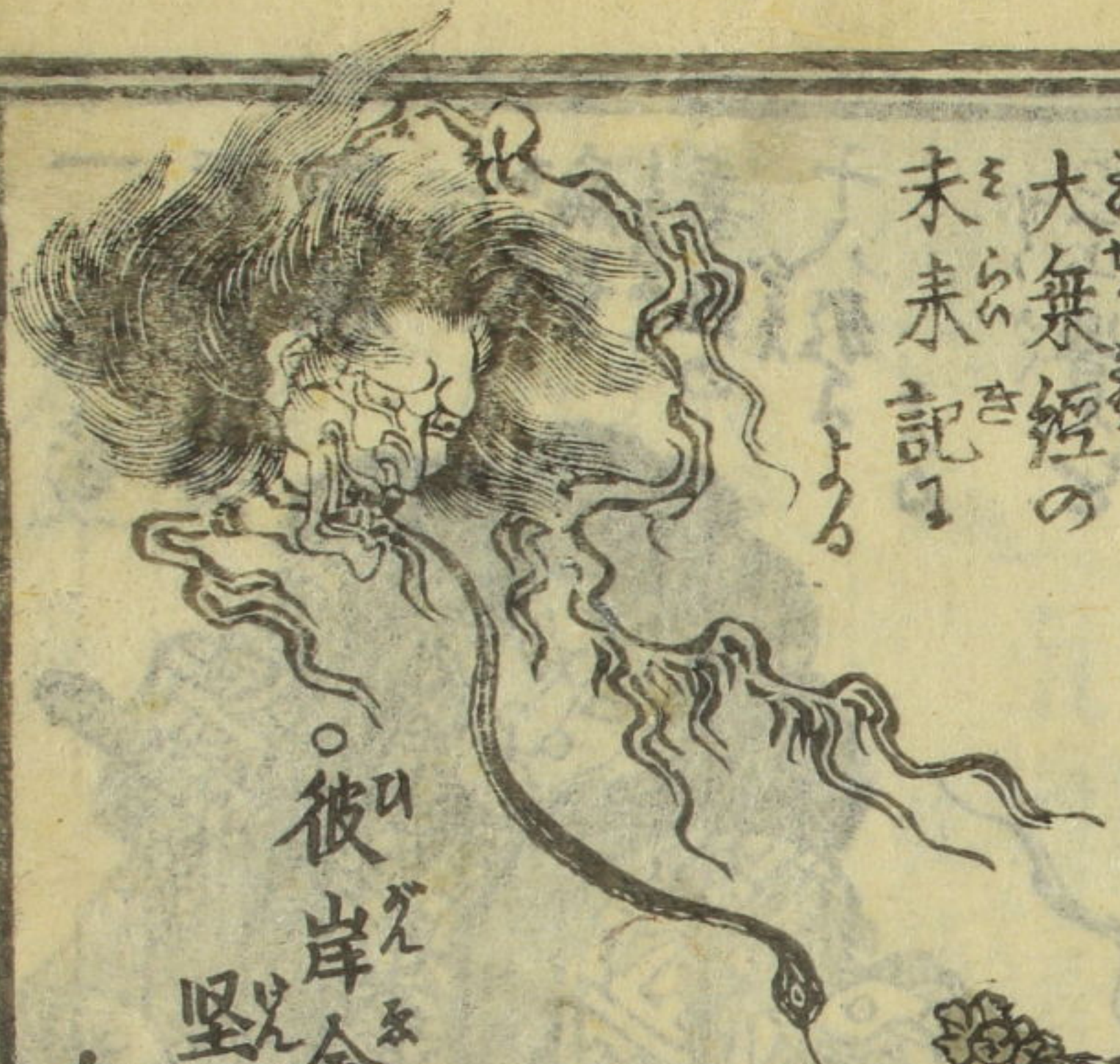
田平の
一女子の
喜



判官
春也
室内
田平子

吾身彌陀
唯心淨土

これ
大無經の
未来記



彼岸會や解脱

堅固の五百年

右 白亭

春也の
妻の
田平





○ある
あや
み
未
を
真
年
市
右竹房

正直捨方便
娑婆即寂
光土
此無量義經の
祝法品よ
よる

○蕙心の傳士佛野座喜

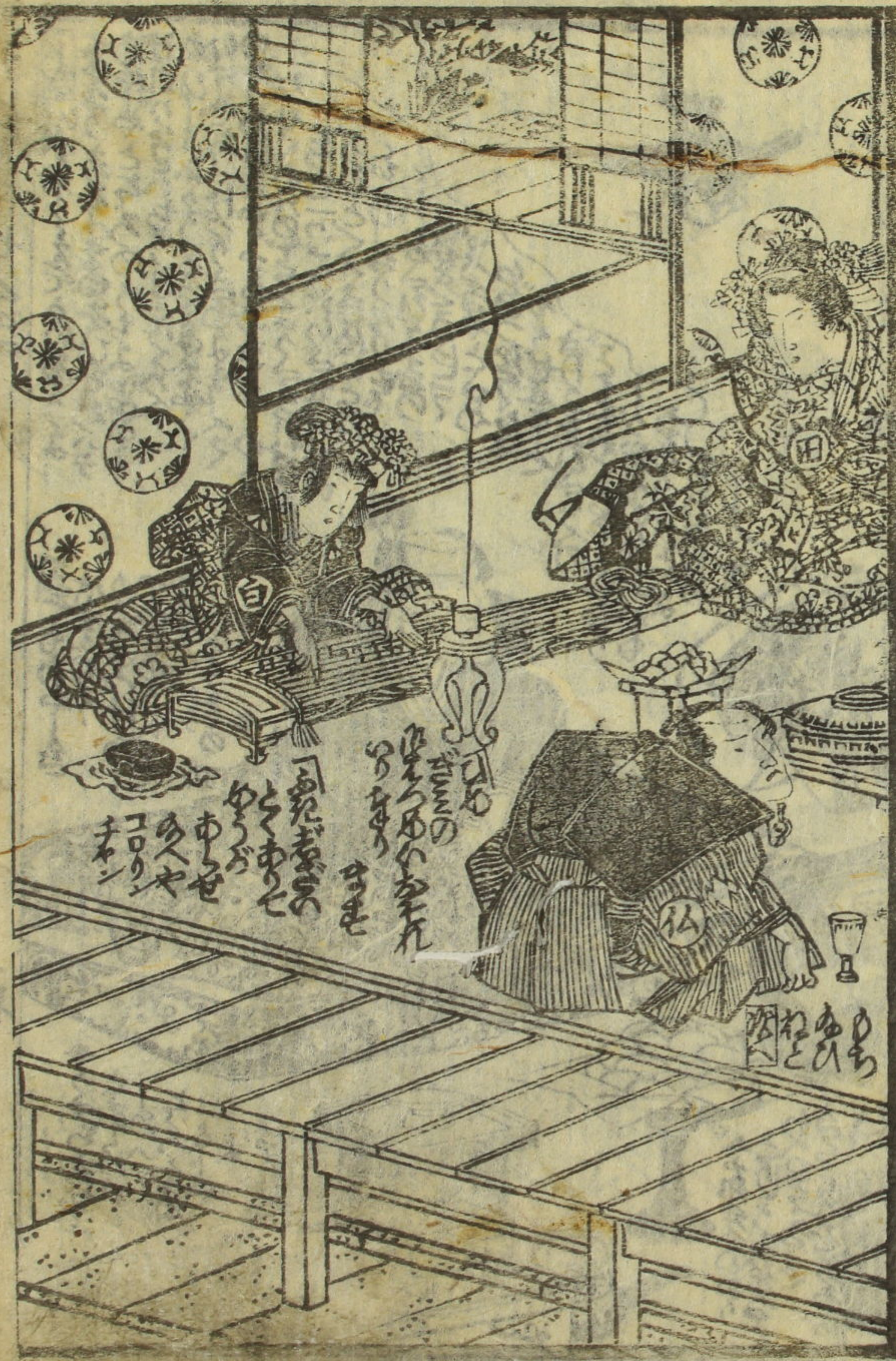
○七種
の
家
藤
九
郎



一念幾
起即身
即佛
元
無量
壽經の
十八形よ
よる
○山覺と
このむと
廓のむざり

○田芥の
一女
蕙心

○五形太郎里佳

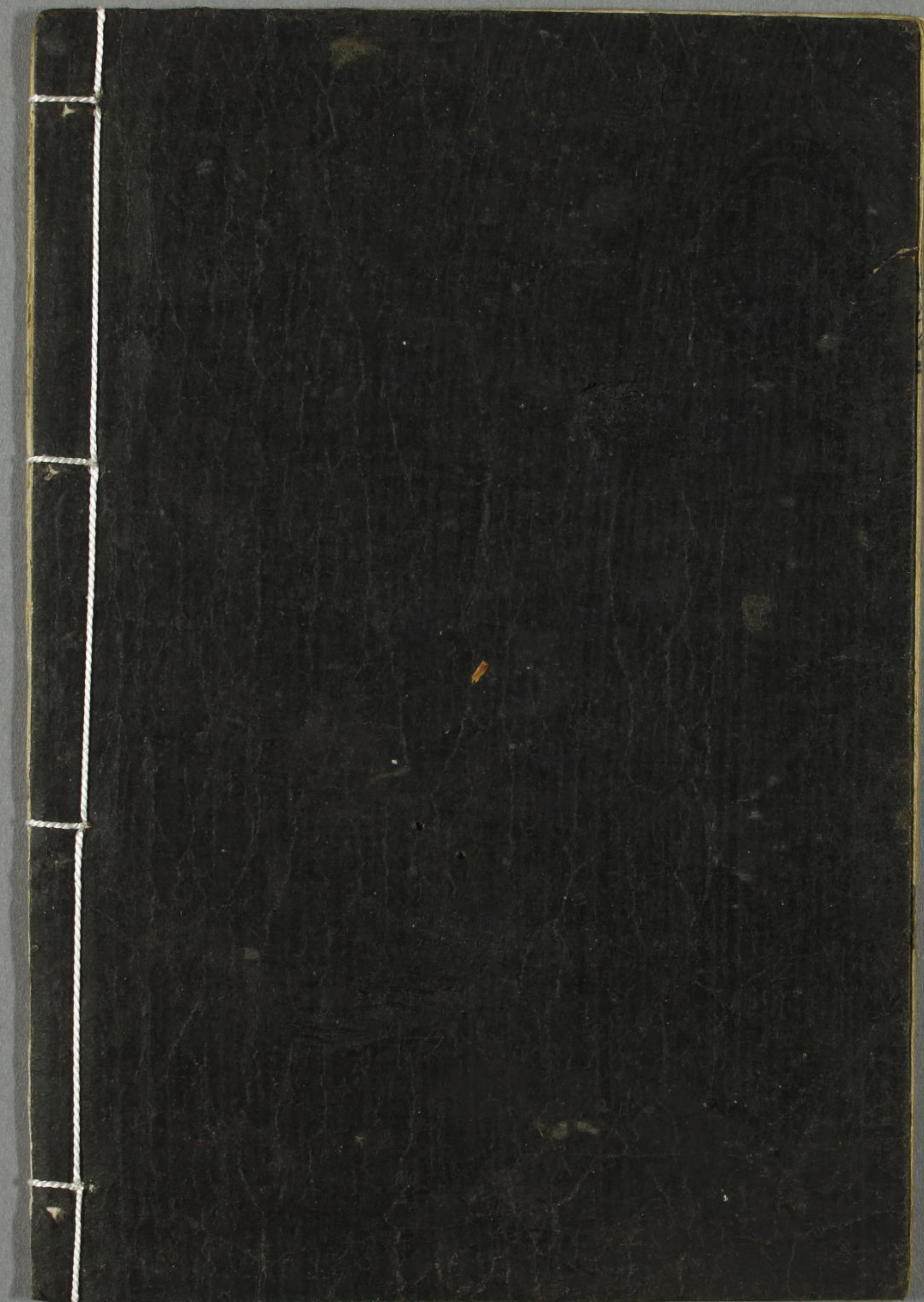






雪麻呂
東里山人合作

雪麻呂
東里山人
合作





甘泉堂
和泉屋市兵衛板

^13
3879
2





